

浜田市漁協津摩地区アワビ人工礁調査

1. 目的

人工礁へのアワビ付着状況を調査する。

2. 調査期日

昭和59年4月9日

3. 調査員

鹿島浅海分場 勢村 均・由木雄一・石田健次

浜田水産事務所 柳 昌之

4. 方法

人工礁区域内に観察点を7点設け（図1）、それぞれの点について1名で5分間のアワビ発見率を求め、さらに植生調査のため50cm×50cmの方形枠内の坪刈りを行なった（坪刈りはst.7をのぞく）。

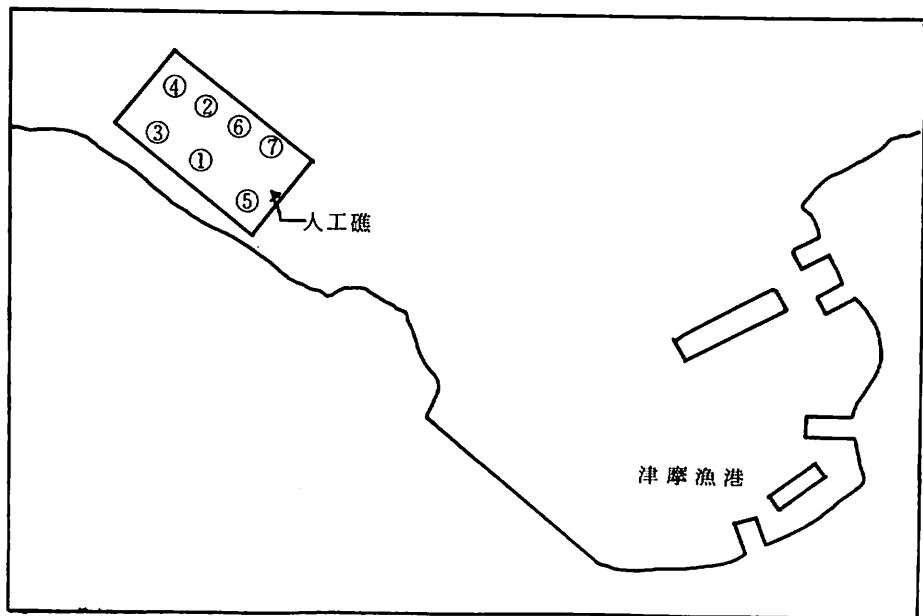


図1 調査点（○：観察点）

5. 結 果

a. アワビ相対密度 (表1)

アワビは st.1-1個体, st.2-1個体, st.3-0個体, st.4-1個体, st.5-1個体, st.5-1個体, st.6-0個体, st.7-3.5個体発見された。発見されたアワビはすべてクロアワビであった。クロアワビは殻長6cm以下の個体が発見数の約50%を占めた。付着位置はブロック下面または割石の下が多く、とりわけ放流直後の個体はすべて割石の下で発見された。

b. 海藻類 (表2)

海藻類は14種出現した。優占したのはモク類, 次いでワカメ, ソゾ類であった。

現存量は300gから5,680g/m²の巾があった。人工礁の上面は天然礁(または転石)に比して海藻類の着生量が少なかった。

表1-1 潜水観察結果

St.	水深 (m)	観察時間 (分)	アワビ種類	殻 長 (mm) および個体数	付着部位
1	1.5~2	5	クロアワビ	6×1個	側 面
2	2~3	5	クロアワビ	5×1	下 面
3	3	5		0	
4	3	5	放流クロアワビ	3×1	下 面
5	2	5	クロアワビ	9×1	石の側面
6	3	5		0	
7	3	観察者(A)	放流クロアワビ	3×2	下 面
			クロアワビ	10×1	下 面
		B		12×1	下 面
			放流クロアワビ	10×1	石の上面
		放流クロアワビ	3×2	石の下面	

表1-2 採捕アワビ測定表

年月日	種 類	殻長 (mm)	殻高 (mm)	殻幅 (mm)	全重量 (g)
S 58. 9. 17	クロアワビ	117.8	21.6	88.4	179.2
		127.2	24.6	95.0	251.6

表2 植生坪刈り調査結果

(すべて人工礁上 g/m²)

St.	1	2	3	4	5	6
マ ク サ	120	+			440	
ア ミ ジ グ サ	+		60			+
フ ク ロ フ ノ リ		+				140
ヤ ツ マ タ モ ク	1,120	80				
ハ ハ キ モ ク	340	60	180		260	2,040
ア カ モ ク				5,680		440
ヨ レ モ ク					160	
ウ ミ ウ チ ワ		40			40	180
ワ ツ ナ ギ ソ ウ	180					
コ ブ ソ ソ		60	1,880		480	+
ア オ サ		40	+			+
ム カ デ ノ リ		20	100		140	
ワ カ メ			840			
キ ョ ウ ノ ヒ モ			+		20	
合 計	1,760	300	3,060	5,680	1,540	2,800